令和５年度　宇部市男女共同参画推進審議会　会議録

〔日 時〕　令和６年２月２日（金）　13:20～15:00

〔場 所〕　宇部市役所　５階　第２委員会室

〔出 席〕　委員 13 名　（会場参加…… 川本，津﨑，鍋山，藤村，宮下，宮本，阿部，岸下，吉川，原田（精），藤井，金子，原田（由））

※欠席１名（鈴木）

事務局５名　黒瀬（部長），石川（次長），片岡（課長），山口（副課長），上野（主任）

◆ **開会挨拶**（市民環境部長）

◆ **議 題**

・会長を議長とし、議事を進行。概要は以下のとおり。

(1)「第４次宇部市男女共同参画基本計画」の進捗状況について

・事務局から資料に基づき説明。主な意見等は以下のとおり。

◇女性応援イクメン奨励助成金について

・男性の育児休暇に対して従業員にも事業者にも助成金がいただけるのは非常にありがたいのだが、事前の申請が必要ということを知らず利用ができなかった。他の助成金などは後申請が多い。せっかくのいい制度なのでもっと利用しやすいものにしてもらいたい。

→〈事務局〉年度当初にお送りしているパンフレットなどを通じて、事前の申請をお願いしている。制度に関する情報の周知をしっかり行っていきたい。あわせて、より多くの方に利用いただけるよう予算確保にも努める。

(2)困難な問題を抱える女性への支援について

・事務局から資料に基づき説明。主な意見等は以下のとおり。

◇婦人相談員について

・女性相談支援員と名称が変わり支援を行っていくことは非常にいいことであるが、SNS等の普及により10代の若者の性被害が多くなっている。刑法の改正により同意のない性行為は「不同意性交等罪」という罪となったので、昔ながらの「ついて行った方が悪い」などの感覚がないよう、相談員に講習や研修をしっかり行ってもらい、きちんと専門的な知識を持った相談員を配置し、様々なケースにきちんと対応できるような体制にしてほしい。

→〈事務局〉これまでも、婦人相談員は県の実施するDVに関する年２回の基本研修と専門研修の他、国立女性会館での研修などを活用して児童虐待等多岐にわたる知識を習得している。性被害に関する研修も強化し、より一層の質の向上に努めたい。

◇DV対策について

・困難な問題を抱える女性への支援ということで、生活困窮などの問題もある。裁判所の調停においては離婚、養育費、婚姻費用など、生活困窮に直結するためできるだけ早く対応するとなっているが、市においてDVと認定されていても実際の裁判の中では話が違っているケースも

多く、差し戻しなども多い。早期解決のためにも、裁判所などの専門機関と研修を積み重なるなどして行政としてDVの認定をしっかり行い、最初の相談において、専門的な法律知識を持った方が積極的に問題解決に動ける体制を作って欲しい。

→〈事務局〉行政のDV認定の件であるが、宇部市が設置している配偶者暴力相談支援センターは、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護のため、被害者からの相談に応じ必要な指導を行う機関なので、当センターではDVの認定を行うことはできず、相談者からの相談を受けているという証明書の発行や、離婚手続きにおける本人の申し立て等の支援を行っている。

・DV対策については、行政だけでやろうとしても限界はあるので、ネットワークを作り関係機関等との連携を強化して取り組んで欲しい。

(3)性の多様性に関する取組について

・事務局から資料に基づき説明。主な意見等は以下のとおり。

◇<u>パートナーシップ宣誓制度について</u>

・山口県が導入を検討しており、山口市は令和6年度から導入予定と聞いている。宇部市は早くから導入しているが、同居を宣誓要件としており、実際に宣誓しようとしている方には敷居が高いので、同居要件の見直しを検討してほしい。また、提供できるサービスが少なすぎるので、研修等を開くなどして協力事業所になってもらえるよう働きかけて欲しい。

→〈事務局〉制度導入当初と比べ社会情勢も大きく変化しており、同居要件については見直しの方向で動いている。提供可能なサービスについても、行政サービスについては拡充に向けて庁内で洗い出しを行っているところである。民間サービスについても他の自治体を参考に拡充していきたいと考えている。

・学校現場では、中学校は授業でも取り上げており、教師も研修等を受けて意識して対応している。制服についても近いうちにジェンダレス制服になると聞いている。

・助産師として出生証明の戸籍上の性について、海外では記載しない国もあり、必要性など含めて常々考えさせられる。

・性の多様性に関しては、世代間での意識にかなりのギャップがあり、10代20代の若者は寛容である一方、その両親世代になるとまだまだ意識を切り替えるところまでは至っておらず、若い人の活躍の場を奪っている。

以　上